

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
アドバンスレッスン2-a											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	田熊知存			実務経験	有	職種	作編曲家				
担当教員紹介											
幼少の頃からエレクトーン・Jazzピアノを習い、コンクールで優秀な成績を収める。様々なアーティストのサポート演奏や楽曲提供を手がけており、幼い頃に影響を受けたDisney音楽のような歌心がありファンタジックな曲の制作を得意とする。											
授業概要											
1年で学んだ作曲編曲の技術を2年生ではさらにDAWの中でより精度を磨いた形で作品にしていく。ミックス・マスタリングにより深い考察と理解をする。エフェクトや波形編集においては、より音楽性が豊かに感じられるトラック制作への知識と技術を身につける。											
到達目標											
実践的なミックスが実現できるように、講義だけではなく各自の作品のDAWデータを見ながらできるだけ解説をする。昨今の音楽は音の仕上げにおいてより複雑でインパクトのある音楽が求められる。EQ、コンプ、リバーブなどの考え方をより深めることによって現代のニーズに応えられるミックスの技術を磨く。また生楽器のミックスではより自然な音にするという事がどういうことなのかを学ぶ。エフェクトを考える意味合いも常に「音楽的」でありことを前提に工夫する思考を磨きたい。Real Dreamsや卒業制作に反映させる。											
授業方法											
一人ひとりの作品のプロジェクトファイルをモニタリングしながら、それぞれのトラックにしかけてあるプラグインエフェクトや音色に対するアプローチを確認。考え方をチェックしてより効果的なテクニックがないかを考える。またミックスやマスタリングに関してはあらためて考え方を講義する。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
何よりも出席重視という事。そして自分以外の人の作品にも興味と考察を深められるようにしたい。そのことで多くのジャンルやスタイルに対する対応力が着く。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	エフェクトの種類とそれぞれの効果に関して理解する										
第2回	音楽におけるエフェクトと映像におけるエフェクトの違いを認識し理解する										
第3回	モジュレーション系エフェクトの効果とサウンドを理解し設定方法を習得する										
第4回	位相変調系エフェクトの効果とサウンドを理解し設定方法を習得する										
第5回	コンプレッサーの意味とそのサウンド効果を理解する										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
アドバンスレッスン2-a	
第6回	コンプレッサーの種類を把握し設定法を習得する
第7回	部分コンプレッサーのかけ方を習得し野のサウンド効果を理解する
第8回	全体コンプレッサーの意義を理解しその設定方法を習得する
第9回	キーボードにおけるシンセサイザーとDTMにおけるシンセサイザーの違いを理解する
第10回	それぞれのシンセサイザーの種類を把握しサウンドバリエーションを理解する
第11回	アナログシンセサイザーの特徴を理解しサウンドキャラクターを加味したうえで使用用途を考察
第12回	デジタルシンセサイザーの特徴を理解しサウンドキャラクターを加味したうえで使用用途を考察
第13回	エフェクト・コンプレッサー・シンセサイザーを用いて作品制作を行う
第14回	上記作品をミックスダウン～マスタリング作業を行う
第15回	個々のフォルダーにて「ポートフォリオ」作成し卒業案件とする

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
アドバンスレッスン2-b											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	田熊 知存			実務経験	有	職種	アレンジャー				
担当教員紹介											
幼少の頃からエレクトーン・Jazzピアノを習い、コンクールで優秀な成績を収める。様々なアーティストのサポート演奏や楽曲提供を手がけており、幼い頃に影響を受けたDisney音楽のような歌心がありファンタジックな曲の制作を得意とする。											
授業概要											
ポートフォリオ制作に向け、各個人が必要とする能力を習得する。 作編曲・ミックス・音作りなど、多方面からのアプローチにより、楽曲のクオリティー向上を目指す。											
到達目標											
各自が目指すクリエイター像により高いレベルで近づく。 しっかりした裏付けに基づく知識と技術を身につけ、より高レベルなポートフォリオの作成に反映させる。											
授業方法											
見本のプロジェクトファイルを参考にしながら説明と実践を行っていく。 各自、PC上で見本データの解析を行い、自作曲へ落とし込む。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
PC上でのプロジェクトファイルを用いた授業となるため、自分で自由に見本データを改変してどのような効果が得られるのかを積極的に探っていくことを推奨する。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	ストリングスセクションにおける5パートアレンジを習得する										
第2回	ブラスセクションにおける5パートアレンジを習得する										
第3回	管弦における5パートアレンジを習得する										
第4回	ストリングスセクションにおける6パートアレンジを習得する										
第5回	ブラスセクションにおける6パートアレンジを習得する										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
アドバンスレッスン2-b	
第6回	管弦における6パートアレンジを習得する
第7回	コードスケールの復習とその仕組みを理解する
第8回	コードスケールの種類と各対応コードを把握しヴォイスングを理解する
第9回	実際にコードスケールを使用した場合のサウンドを分析することにより理解を深める
第10回	対位法とは何かを理解する
第11回	トラディショナルな音楽での対位法を分析する
第12回	ポピュラー音楽での対位法の効果的な利用方法を学ぶ
第13回	Voicing 対位法を使用してアディショナルアレンジを施す作品を制作
第14回	制作した作品の最終チェックを行う
第15回	後期まとめ

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
アドバンスレッスン2- c											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	甲原 主			実務経験	有	職種	アレンジャー				
担当教員紹介											
クラブミュージックを主軸とした作曲家。アーティストへの楽曲提供からCM音楽、ゲーム音楽などボーダレスに活躍している。また、自身もアーティストとして活動も行っている。											
授業概要											
楽曲また作曲者等分析することにより、自分がどのような作品を制作するのかを改めて認識し、卒業後の作家としての活動に生かしていくことを目的とする。 後期は「協働制作」をテーマにし、昨今のクリエイターとして必要不可欠なコンテンツを含めた制作を進め音楽だけではなく幅広いクリエイターを目指す。											
到達目標											
分析を基にコンテンツ制作も視野に入れたクリエイターを目標とする。 他人とのコ・ライティング、共同作業によってコミュニケーション能力を高めていく事、そしてそれらにより作品のクオリティを上げていくことを目標とする。 合同卒業展への作品展示・Real Dreamsでの披露等幅広く活用できる作品を制作する。											
授業方法											
前期は主に分析を主とした講義を展開する。音楽の分析はもとより後期に向けてのグルーピングのための各個人の人間分析も行う。 各個人の音楽に対する分析を基に分析課題を行い発表し、方向性の近い学生とチームを作り、後期はチームごとで制作に入っていく。 最終授業内でプレゼン発表会を行う。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
前期の分析発表会では他人の発表もこまめにノートに記録する。分析結果をもとにグルーピング基準を検討し制作すること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 1										
第2回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 2										
第3回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 3										
第4回	各自制作物をグループ間で発表、プレゼン										
第5回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 1										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
アドバンスレッスン2-c	
第6回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 2
第7回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 3
第8回	各自制作物をグループ間で発表、プレゼン
第9回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 1
第10回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 2
第11回	エフェクターを使って一つの素材から複数の効果音を作る 3
第12回	立体的な音像の作り方 1
第13回	立体的な音像の作り方 2
第14回	立体的な音像の作り方 3
第15回	最終発表会の実施 合同卒業展への作品展示

2022年度 日本工学院専門学校											
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース											
アドバンスレッスン2-d											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	120	単位	4
担当教員	甲原圭			実務経験	有	職種	音楽家				
担当教員紹介											
クラブミュージックを主軸とした作曲家。アーティストへの楽曲提供からCM音楽、ゲーム音楽などボーダレスに活躍している。また、自身もアーティストとして活動も行っている。											
授業概要											
国内における音楽制作環境の多くは、プライベートスタジオと呼ばれる自宅などを中心としたDAW環境に移行されている。1 年次では、限られた制作環境の中でいかにクオリティの高い作品を生み出すかについて実践的なアプローチを習得してきた。2 年次では、ミックスアプローチをさらに深く掘り下げて、より立体的な音場作りを習得する。また、録音時の集音方法によるサウンドの違いを理解し、実践的なミックスに取り入れる。さらにマスタリングの基礎を学び、完全なパッケージとしてクライアントの要望を的確に捉え、作品のクオリティをさらに高める方法を習得する。											
到達目標											
楽曲制作のポストプロダクションの過程となるミックスの構造を理解し、自身の楽曲におけるミックスアプローチの向上、より立体的な音場作りを行う方法の習得を目指す。 音作りにおいて重要となるエフェクト効果の知識を深め、楽曲に合わせたサウンドメイクを行うこと、マスタリング基礎知識を学び、ミックス・マスタリングのプロセスを経て、自身で作品をパッケージ化するまでの方法を習得することを到達目標とする。											
授業方法											
この授業では、1 年次に習得したミックス技術をさらに深めるとともに、コンプレッサーやイコライザーなどのダイナミクス系エフェクトプラグインやディレイやリバースなど空間系エフェクトプラグインの使い方を理解し、自作曲にフィードバックする技術力を身につける。最終的には一般に流通している音源と差異のないレベルの作品を仕上げることを目的とする。											
成績評価方法											
試験・課題	70%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
成果発表	20%	授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価									
平常点	10%	積極的な姿勢									
履修上の注意											
授業の際は筆記用具、ノート（五線紙もあることが望ましい）、データを記録する外付けHDD（SSD）、ヘッドフォン（必要に応じてミニステレオ標準フォンプラグの変換）を毎回用意すること。毎回の授業内容はノートに採り、自身で繰り返し確認できるようにする。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。											
教科書教材											
毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	各自のDAW環境に合わせ、DAWルームでレコーディングが行えるよう正しい知識を身につける										
第2回	CM音源など、短い作品を録音する際のボーカルレコーディングを身につける										
第3回	ボーカル曲など、一般的な作品を録音する際のボーカルディレクションを身につける										
第4回	環境音やノイズなど、独自の素材を使用しループ素材を制作する										
第5回	環境音やノイズなど、独自の素材を使用しループ素材を制作する										

2022年度 日本工学院専門学校	
ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース	
アドバンスレッスン2-d	
第6回	ホールリバーブ、ルームリバーブを理解する
第7回	プレートリバーブ、ゲートリバーブを理解する
第8回	ディレイの特徴、使用法を理解する
第9回	自作曲に対してのミックスアプローチを理解する
第10回	自作曲に対してのミックスアプローチを理解する
第11回	マスタリングの必要性を理解する
第12回	マスタリングスタジオにおける実作業を理解する
第13回	マスタリングの調整法を理解する
第14回	年間を通じた授業内容のまとめ、及び作品に対する総合的な判断力を身につける
第15回	作品に対する総合的な発表力を身につける